



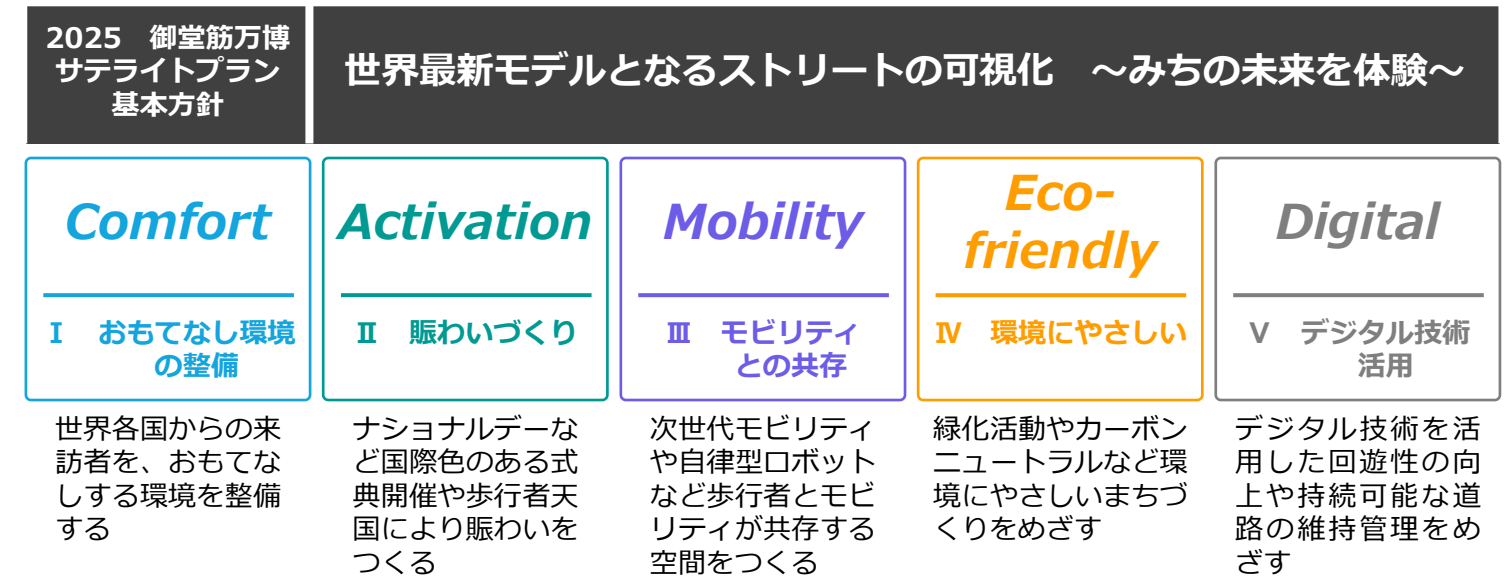
- 【趣旨】万博サテライトプランを意識した取組を実施（道協団体・国と連携）
 1.万博機運醸成に関する実験(MX推進)、2. DX・GX推進、3.御堂筋の利活用・回遊創出
- 【期間】2023年11月4日（土）～11月30日（木）
- 【実施主体】大阪市建設局・NPO法人御堂筋・長堀21世紀の会/一般社団法人ミナミ御堂筋の会（大阪市指定・道路協力団体）
 国土交通省近畿地方整備局大阪国道事務所

御堂筋で取り組んできた4回の社会実験



背景：2025年に御堂筋万博サテライトプランを実施

- ・2025年の大阪・関西万博開催にあわせて、大阪を訪れる世界中の人に、世界最新モデルとなるストリート体験してもらうことを目標に、「世界最新モデルとなるストリートの可視化～みちの未来を体験～」を御堂筋万博サテライトプランの基本方針とする。
- ・基本方針のもと、これまでの検討経緯や、「御堂筋将来ビジョン」で掲げた3つの将来イメージシーン、「大阪府・大阪市の万博アクションプラン」をふまえ、5つの取組方針を位置付ける。



⇒「御堂筋チャレンジ2023」の実施を、御堂筋万博サテライトプランのプレ実験に位置づける

「御堂筋チャレンジ2023」実施期間

11月 4日（「座・御堂筋」実施日） ～ 11月30日（万博500日前）



「御堂筋チャレンジ2023」検証結果

1. 歩行者利便増進に向けた利活用（イベント）

◆ 継続的に財源確保が可能か

■ アメリカ村の会と連携したイベント



▲ イベントのコンセプトや会場の雰囲気に対しては出店者からも高い評価が得られた。

【課題】歩行者数は多いが立ち止まって見る人は少なく、イベントとしての認知度向上やイベントを目的に来場するファンづくりが課題としてあげられた。

■ 道路協力団体主催のイベント（コーヒーフェスティバル）



▲ 心斎橋の中心部で展開できたことは総じて好評で、次回を期待する声が多く聞かれた。

【課題】事業の黒字化が課題であり、継続に向けた主催者側の収入増加、開始時期や期間の工夫等が求められている。

➤ 持続的な賑わいの創出の実現に向けた方向性

- ✓ イベントの内容、時期、期間等、当地にふさわしく持続可能な賑わい創出のあり方を引き続き検討する。

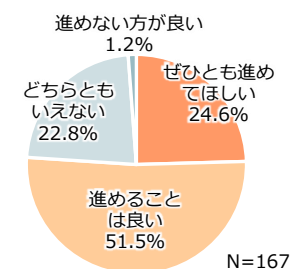
◆ 歩行者利便増進に向けた活用



■ 道路協力団体主催のイベント（座・御堂筋）



マルシェ開催等の利活用に対する評価



▲ ミナミ御堂筋らしいストリートマーケットを万博に向けて開催することに対する評価は高い。

【課題】収支は赤字のため、自律的な運営が可能となる資金獲得・マネタイズ、ファンづくりが必要である。

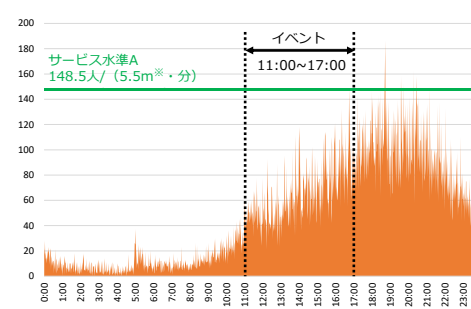
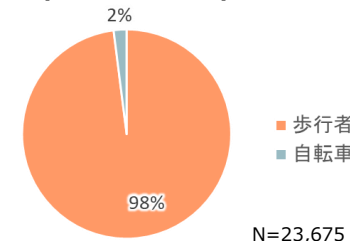


図 『座・御堂筋』実施中の歩道の歩行者数（11/4（土））

歩道における歩行者と自転車の割合（11:00~17:00）

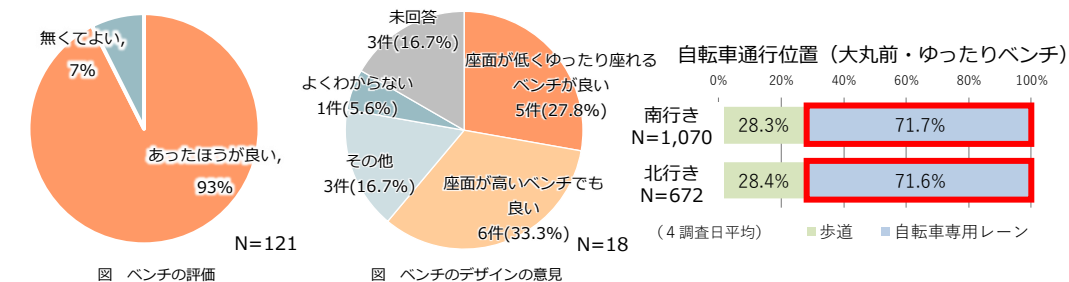


2. 歩行者利便増進に向けた利活用（ベンチ設置）

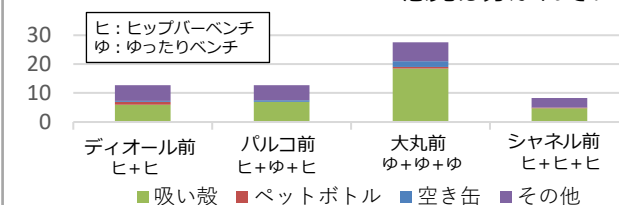
◆ ベンチ・サインが最終形としてふさわしいか



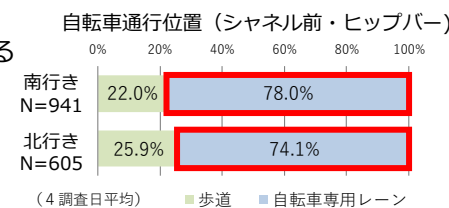
▲ 利用はゆったりベンチの方がヒップバーベンチよりも多く見られた。



▲ ベンチを利用していない人 ▲ ベンチの形状に対するからも設置が望まれている。意見は分かれている。



▲ ごみの量はヒップバーベンチの方がゆったりベンチよりも少ない。



▲ いずれの形状・配置でも一定の整流効果が見られ、ベンチ形状や配置による大きな差は見られなかった。

➤ ベンチ設置の方向性

- ✓ 整流効果として期待できる端部への設置を基本として、最終的な配置（設置数を含む）及びデザインについて、引き続き検討する。

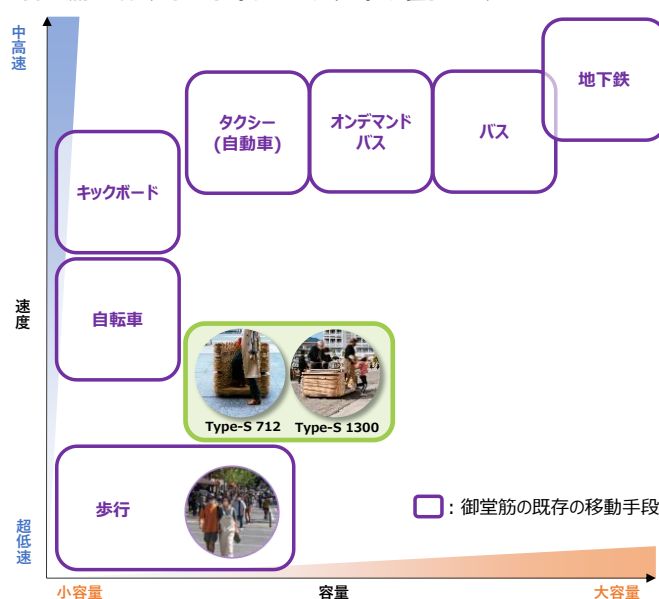
3. モビリティ共存

◆ 次世代モビリティの安全性等検証

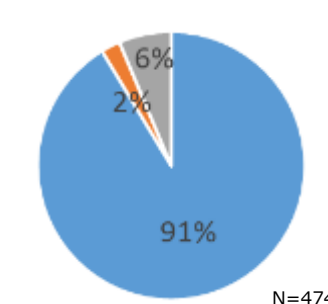


輸送実績から低速かつ中程度の輸送力が確認できた。▶

御堂筋における次世代モビリティの位置づけ

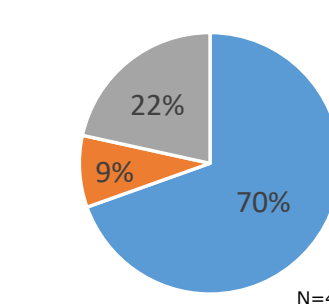


モビリティ乗車の安全性



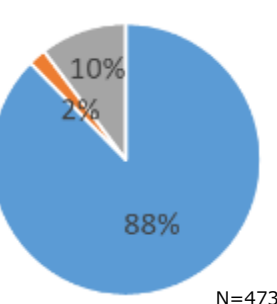
▲ 91%が次世代モビリティは安全だと感じている。

歩行者がいる場所での走行安全性



▲ 70%が歩行者がいる場所を走行しても安全だと感じている。

万博へのふさわしさ



▲ 88%が次世代モビリティ走行することは万博にふさわしいと感じている。

➤ 御堂筋における次世代モビリティ共存の方向性

- ✓ 次世代モビリティの安全性や新たなニーズを確認できたことから、今後の取組として検討する。

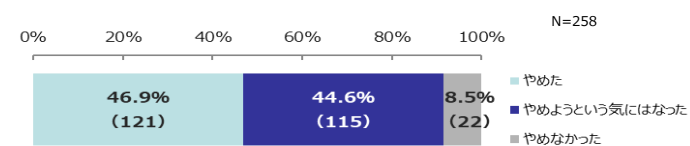
4. GX技術

◆ 路面太陽光発電の活用



▲路面に設置した太陽光発電パネルで発電し、「歩きスマホ」に対して、注意喚起。

Q.ガラス導光板による注意喚起を見た上で、歩きスマホをやめましたか？



▲約50%の方が歩きスマホをやめたと回答。

➢ GX技術の方向性

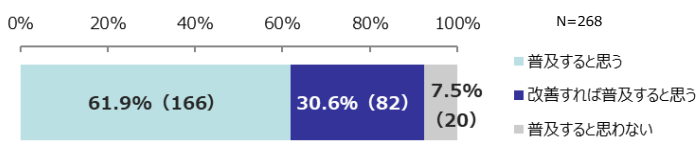
- ✓ 道路空間における路面太陽光発電による「歩きスマホ」の注意喚起効果や床発電の設置による期待のニーズが確認できた。引き続き太陽光発電等を活用したCO₂排出の削減等のカーボンニュートラルの取組を検討する。

◆ 床発電の活用



▲歩行者がパネルの上を通行すると振動により発電。

Q.床発電パネルを活用した歩道上での発電は全国的にも新しい取組です。今後の普及展開は期待できそうですか？



▲約60%の方が今後の普及展開が期待できると回答。

5. デジタル技術活用

◆ プロジェクションマッピングによる歩行者・自転車の整流化、歩道と自転車道の分離



▲投影した自転車のピクトグラム上を通行する自転車やキックボード。

▲投影した歩行者のピクトグラム上を通行する歩行者。

◆ プロジェクションマッピングによる効果の検証

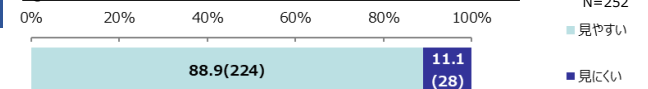


▲自転車のピクトグラムにより、北進する歩行者が歩道寄り(図中の上側)に進行方向を変えた状況を確認。

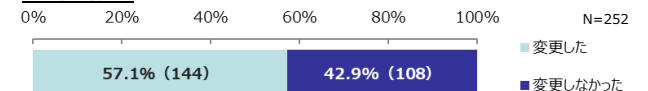
➢ デジタル技術活用の方向性

- ✓ プロジェクションマッピングによる歩行者の行動変容や自転車道と歩道の一定の分離が確認できた。引き続き観光客などの歩道の誘導に向けた取組を検討する。

Q.プロジェクションマッピングは見やすかったですか？



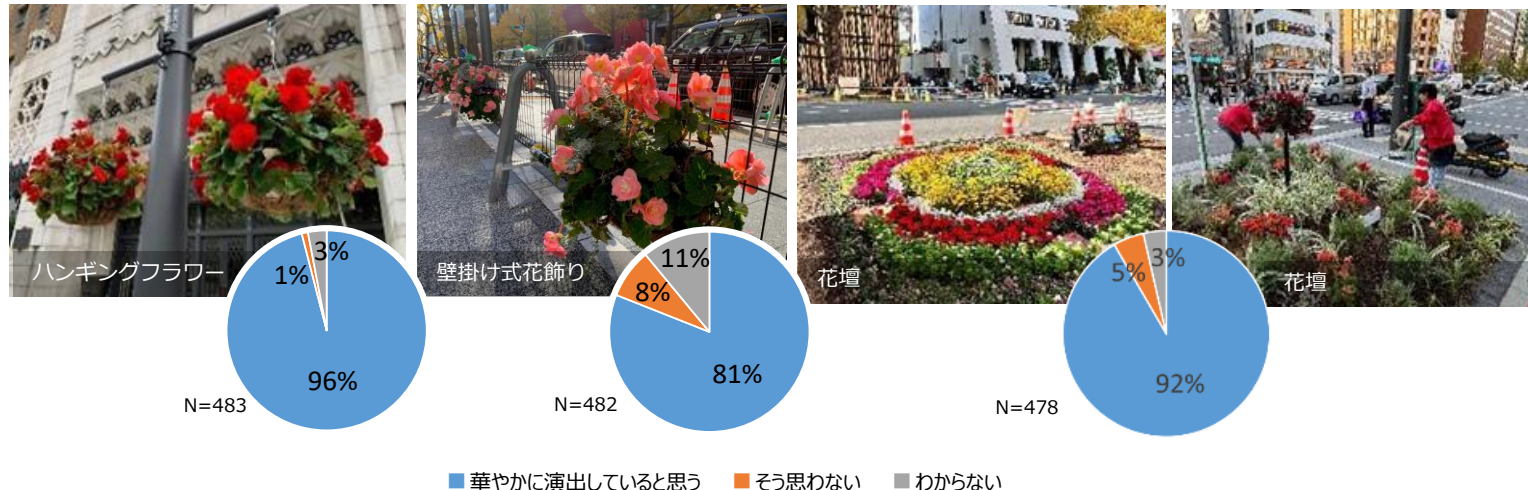
Q.プロジェクションマッピングの内容を見た上で、通行位置を変更しましたか？



▲約90%の方がプロジェクションマッピングが見やすいと回答。また、約60%の方が通行位置を変更したと回答。

6. シティドレッシング

◆ 花飾りによるシティドレッシングが御堂筋の景観に寄与しているか



▲御堂筋を華やかに演出していると感じられる割合は、ハンギングフラワーが96%、壁掛け式花飾りが81%、花壇が92%と、いずれも高評価であった。

➢ シティドレッシングの方向性

- ✓ 花飾りによるシティドレッシングが御堂筋の華やかさの演出に寄与していることが確認できたことから、今後の取組として検討する。

7. 地域情報案内板の設置

◆ 情報発信スポットの設置(地域情報案内板)の有効性



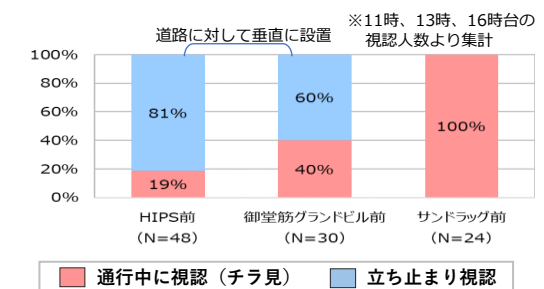
▲HIPS前

(2期整備区間東側 ほこみち特例区域内)
(画面の大きさ(50インチ程度)を北向きに設置)

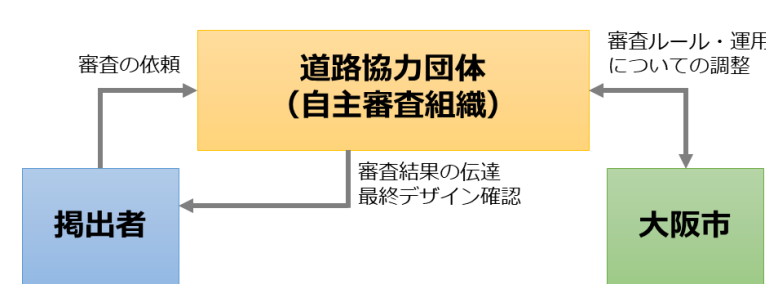
▲サンドラッグ前

(2期整備区間東側 ほこみち特例区域内)
(画面の大きさ(50インチ程度)を東向きに設置)

▲HIPS前、御堂筋グランドビル前は案内板前に立ち止まり視認する割合が高い。



◆ 自主審査組織によるデザインオリティの確保



▲掲出するコンテンツの景観・デザイン面のチェックとして道路協力団体による自主審査組織を設定。

➢ 地域情報案内板設置の方向性

- ✓ 画面の大きさや向きなど、交通や景観における影響等の検証結果を今後の地域情報案内板の整備に活かしていく。
- ✓ 景観に配慮したデザインコントロールについて引き続き検討を進める。

◆ 自主審査によるデザインのテンプレート化



▲禁止系のデザイン、色調の統一や、公共系のデザインの改善、テンプレート化を実施。

エリア全体での増加傾向に対し、リアルタイム撤去を実施した御堂筋西側エリアは減少傾向がみられた